

第1回放射性廃棄物処分関連分野プログラム技術評価検討会
議事録（案）

1. 日時：平成28年11月1日（火）10:00～12:00

2. 場所：経済産業省別館11階1111会議室

3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

北田 貴義	株式会社三菱総合研究所	主席研究部長
※小島 圭二	東京大学	名誉教授 地圏空間研究所
鳥居 和之	金沢大学	理工研究域 環境デザイン学系 教授
中野 政詩	東京大学	名誉教授
福井 勝則	東京大学	工学系研究科 システム創成学専攻 教授

（事務局）

放射性廃棄物対策課 放射性廃棄物対策技術室

室長 宮本 岩男
課長補佐 島田 顕臣

（評価推進課）

産業技術環境局技術評価室

課長補佐 村田 博顕
技術評価専門職員 江間 祥三

4. 配付資料

資料1	放射性廃棄物処分関連分野プログラム技術評価検討会 委員名簿
資料2	研究開発評価に係る委員会等の公開について
資料3	経済産業省における研究開発評価について
資料4	評価方法（案）
資料5	評価コメント票
資料6-1	放射性廃棄物処分関連分野に係る研究開発プログラムの概要
資料6-2	各プロジェクトの概要
参考資料1	経済産業省技術評価指針
参考資料2	経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

5. 議事内容

(1) 座長の選出

委員の互選により、小島委員が座長に選任された。

(2) 評価検討会の公開及び評価の方法等について。

宮本室長から資料2～5について説明を行い、本検討会を公開すること等について了承された。

(3) 事業の概要について

宮本室長から、資料6-1, 資料6-2について説明を行った。主な質問と回答は以下のとおり。

【北田委員】

- ・すでに終了している研究課題もあるが、この評価結果はどのように生かされるのか。

【宮本室長】

- ・今回はプログラム全体としての評価をいただくものであり、個別には終了している研究課題もあるが、今後の研究開発を効果的に進めていくために、研究開発が足りない点や、今後実施すべき内容を提案していただけるとありがたい。

【福井委員】

- ・全体計画では、求める調査技術等が詳細に記載されているように思うが、個別の研究開発事業において、委託事業として確立したい技術開発内容の設定が妥当であるか等も評価対象とするのか。

【宮本室長】

- ・確立したい技術の内容は所与のものである。今回は技術の確立に向けて、個別の研究開発事業で実施した内容や成果が評価の対象範囲である。

【鳥居委員】

- ・初年度に出された予算計画は毎年評価されているのか。

【宮本室長】

- ・1年目の予算額はその後保証されているわけではない。毎年度要求し、外部レビューで評価され、増やすか減らすかを決めている。

【中野委員】

- ・資料中の「当省（国）が実施することの必要性」について、「経済産業省」と「国」は論理的には違うのではないか。

【宮本室長】

- ・今回は、経済産業省の技術評価なので、国が実施する必要性の評価はもちろんのこと、その中でも特に経済産業省が実施することの必要性を評価いただきたいという意図。

【福井委員】

- ・事業の費用対効果を評価する上で参考となる内訳を知りたい。

【宮本室長】

- ・予算内訳を把握できる資料を提示する。

【北田委員】

- ・全体プログラムはどう評価すべきか。

【宮本室長】

- ・例えば、放射性廃棄物処分の安全性に対する安心感を醸成するために何が達成されるべきか、そのための研究開発がなされているかなどを指摘いただきたい。

【中野委員】

- ・評価の観点をどう考えるべきか。社会科学的観点は含めて良いか。

【宮本室長】

- ・技術評価として報告書をまとめることから、技術的な観点で評価をいただくことが基本である。ただし、報告書への記載範囲とはならないとしても、今後の施策に生かせるよう、観点を特段限定せずにご意見をいただきたい（座長からも同様のコメントあり）。

(4) 今後の予定について

評価コメント票の提出は平成28年11月15日を目途とし、質問は随時、事務局まで問い合わせることを確認した。また、第2回評価検討会は日程調整の上、委員に連絡をすることとし、書面審議もあり得ることを確認した。

以上